緊急消防援助隊の車両・資機材の整備による効果的な消防活動の実施

3か年緊急対策　5か年加速化対策　災害時の効果発揮事例　国土強靱化 NATIONAL RESILIENCE

概　　要：令和8年4月に岩手県大槌町で発生した林野火災において、事前に配備した車両・資機材を活用し、効果的な情報収集や消火活動を実施することができ、さらなる被害拡大の防止に貢献した。
対 策 名：35 大規模災害等緊急消防援助隊充実強化対策＜５か年加速化対策＞【総務省】

■ 実施主体：総務省消防庁

■ 実施場所：岩手県上閉伊郡大槌町

■ 事業概要：近年、激甚化・頻発化する土砂・風水害や切迫する南海トラフ地震等に備え、緊急消防援助隊の対応力を強化するため、車両・資機材の配備を実施した。

■ 事業費：78.4億円　※全国の事業費
- 3か年緊急対策（平成30年度～令和2年度）　44.5億円
- 5か年加速化対策（令和3年度～令和6年度）　33.9億円

■ 災害の外力、被害と効果：令和8年4月に岩手県大槌町において、林野被害約1,633ha（精査中）の大規模火災が発生した。山間部において人が立ち入ることが困難な場所でも、仙台市消防局に配備したドローンにより、熱源を効率的に把握するとともに、小型バギーなどの車両や、緊急消防援助隊動態情報システムを活用し、効果的な消火活動を実施することができた。


小型バギー


緊急消防援助隊動態情報システム

【情報収集活動用ドローン】
被災地において、近接できない災害現場で要救助者の捜索や被害状況の把握を迅速に行い、指揮活動等に活用


全国の緊急消防援助隊に84機を5か年加速化対策で配備


ドローンの赤外線カメラで撮影した映像

【大槌町林野火災における活動の様子】



狭あいな林道を小型車両を活用し人員、資機材の搬送及び消防用ホースの延長などを実施


12都道県の緊急消防援助隊がローテーションを組みながら24時間体制で消火活動を実施